

施策名			
1 学校教育の充実			
(1) 実社会で生きる実践的な力の育成			
施策評価			
B	各事業の評価を合計した結果の平均から判断	A=3.4~4.0 B=2.6~3.3 C=1.8~2.5 D=1.0~1.7	
事業名(担当部署)	評価	点検内容	
1 指導室	3	事業概要	平成14年度から実施。平成28年度からは小学校3年から中学3年までの全児童生徒で、小学校4教科(5・6年については5教科)、中学校5教科を12月に実施し、学力の定着状況を分析する。
標準学力調査		実施状況	令和2年度、全小・中学校の全学年において実施。指導室の結果分析を基に、各学校においても結果を分析し、課題を把握して今後の対応について検証を深めることができた。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着		総合評価	経年変化から、各学年少しずつ得点率が上昇している。各校において学習における課題等の共通理解が図られている。今後は思考力の向上を目指した手立てを講じる必要がある。
2 指導室	3	事業概要	国が義務教育の機会均等とその水準維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査		実施状況	全国的な実施は中止となったが、町全体では取り組み、自校採点により結果分析を行った。課題等の改善に向けた具体策を全教職員で共有し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことができた。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着		総合評価	全体的に算数・数学科において課題が見られることから、少人数指導や個別指導の充実を図る必要がある。また、読解力にも課題が見られるため、各教科等において言語活動の充実を図る必要がある。
3 指導室	4	事業概要	「かけ算九九」「漢字の読み書き」など児童生徒にこれだけは身につけさせたい基礎的・基本的な知識・技能を着実に身につけ、それを活用する力に結び付ける。
基礎学力定着(向上)プログラム		実施状況	各校において、独自に学習内容の定着を見取る検査の実施や基礎学力定着強調週間等を設けるなど、基礎基本の確実な定着を目指した取組を推進していくことができ、全体的に学力向上に繋がった。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着		総合評価	児童生徒の実態に応じた補充的な学習の時間を設けて指導を徹底することにより、確実な基礎的・基本的な学力の定着を図る必要がある。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
4	指導室	3	事業概要	教育大釧路校との協定に基づく連携事業で、互いが持つ有為な人材や施設を有効活用し、互いの推進事業を従前以上に高める。
教育コラボレーション構想推進プログラム			実施状況	新型コロナの影響で附属釧路小・中学校の教諭を講師として招聘する機会は少なくなったが、GIGA構想に関わり、オンラインの手法等を附属釧路中の教諭から講義を受けることができた。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	求められる資質・能力の確実な定着を図る上で授業改善は必要不可欠であることから、教育大との連携の場を更に広げ、研修できる環境を整備する必要がある。
5	指導室	3	事業概要	国際社会を豊かに生きる力を育成するため英語・中国語教育を幼児期から推進し、外国語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、コミュニケーション能力の基礎を養う。
外国語初歩習得プログラム			実施状況	新型コロナの影響で中国語の授業は開催できなかったが、英語においては各校で放課後英会話教室を開催し、「使える外国語」を目指した取組の充実を図ることができた。
【教育行政のスキーム】 語学力とコミュニケーション能力の育成			総合評価	放課後英会話教室の充実を図り、日常的に外国語を使う場を意図的に設定する必要がある。また、外国語の授業においてはコミュニケーション場面を具体的に想定した授業を積極的に展開する必要がある。
6	指導室	4	事業概要	外国語初歩習得プログラムに基づき、幼児・児童・生徒に対し、英語に慣れ親しむ活動を通してコミュニケーション能力の育成を図る。
ALTの設置			実施状況	各校、ALTがTTとして授業を行うことは常態化した。指導内容では担当教師と綿密な打ち合わせを行い、コミュニケーション能力の育成に力点を置いた授業を展開することができていた。
【教育行政のスキーム】 語学力とコミュニケーション能力の育成			総合評価	児童生徒の英語の学力を客観的に分析して課題を明らかにするとともに、課題解決に向けた取組の充実を図る必要がある。授業外で子どもたちが英語や中国語に触れ合える環境を整備する必要がある。
7	管理課 総務係	3	事業概要	白糠高校の「魅力ある高校」としての特色ある教育活動の充実、そして末永い存続のため補助金の支出を行う。
白糠高校への支援（教育振興協議会補助金等）			実施状況	今年度も白糠高等学校教育振興協議会へ、教育活動内容の充実並びに高校の魅力づくりのために、4,177千円を交付したほか、白糠高校内の教室と公民館内の2か所による久遠塾を開塾したことにより、学習支援と学力向上へのサポートをすることができた。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	キャリア教育を見据えた新たな取組が実施され、授業内容・生活規律・国際交流・運動の面に力を入れて、学校を活性化しようとしている。チームティーチングによる授業サポート等を実施することができた。今後は、生徒への学習サポートを工夫し、より効果的に取り組む必要がある。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
8	管理課 学校教育係	3	事業概要	講師を学校に配置し、放課後学習を実施することで、小学校低学年から主体性や自主性、そして家庭学習習慣を身に着けさせる。
放課後学習サポート事業			実施状況	小学校1年生から3年生において、タブレットやプリントを使用した放課後学習を実施した。
【教育行政のスキーム】 基礎基本の確実な定着			総合評価	9割以上の参加率となり、継続的な高い学習意欲が伺える。今後は対象学年の更なる拡充や指導方法を工夫し、より効果的に実施していく必要がある。

施策名			
1 学校教育の充実			
(2) 豊かな心と健やかな体の育成			
施策評価			
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断	A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容
1	指導室	3	事業概要 指導室そして町生徒指導研究協議会が中心となり、児童生徒ひとりひとりを大事にする生徒指導を展開し、いじめのない学校づくりを進める。
いじめ対策(生徒指導)			実施状況 新型コロナの影響により、いじめ未然防止に向けた「子ども会議」の開催はできなかったが、いじめ調査等でいじめ認知に努め、教育相談体制を強化させるなど、全校的な取組の充実を図ることができた。
【教育行政のスキーム】 道徳教育の充実			総合評価 「嫌なことがあっても誰にも相談しない」、「いじめは許される」と回答する児童生徒の数をゼロにする取組として、教育活動全般において道徳教育による心の育成に努める必要がある。
2	管理課 学校教育係	3	事業概要 多様化する児童生徒の悩み、ストレスに対し、カウンセリング等を行い、また、教職員に対して問題を抱える児童生徒への適切な対応について指導、助言を行う、文部科学省の派遣事業。
スクールカウンセラーの配置			実施状況 児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラー1名を町内の中学校へ配置した。生徒への個別カウンセリングや教職員・保護者への教育相談等の実施により、生徒の心の悩みの深刻化やいじめ・不登校等の問題行動の未然防止、早期発見・早期対応に努めた。
【教育行政のスキーム】 基本的な生活習慣の定着			総合評価 教育相談の内容が多岐にわたることから、カウンセリングを受けられる回数の確保と継続的に行う必要がある。
3	管理課 学校教育係	2	事業概要 多様な悩みやストレスを抱える児童生徒の相談及び保護者からの教育相談への助言指導を行い、不登校、教室に入れない児童生徒の適応指導、基礎学力の復習等の支援を行う。
こども支援員の配置			実施状況 教育職員免許状を有する「こども支援員」を3校へ4名を配置し、学校生活におけるサポート・相談体制の充実に努めたが、1校は配置することができなかった。
【教育行政のスキーム】 特別支援教育の充実			総合評価 支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある中、支援体制を維持・強化するため、有資格者の確保による1校に一人以上の配置に努める必要がある。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
4	指導室	3	事業概要	平成19年度より従来の特殊教育から特別支援教育に制度改正されたのを受け、発達障害の子どもを含め、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応える適切な支援を行っていく。
特別支援教育の充実			実施状況	特別支援学級に在籍する児童生徒については、個別の支援計画に基づいた教育が展開され、それぞれの児童生徒に適応した指導が行われているが、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対しては、個別の支援計画そのものが作成されていないという事案が見られた。
【教育行政のスキーム】 特別支援教育の充実			総合評価	在籍する学級を問わず、特別な支援を必要とする児童生徒全員の個別の支援計画を整備するとともに、個の特性に応じた授業を展開するなど、よりきめ細やかな指導の充実を図る必要がある。
5	指導室	3	事業概要	平成20年度より配置した栄養教諭については、各小中学校において、児童生徒の栄養指導及び管理さらに食育の推進を図ることとしている。
栄養教諭の配置と活用			実施状況	給食だより等で、食に関する情報を提供するなど、各学校における食育への取組の充実を図ることができた。
【教育行政のスキーム】 食育・木育の推進			総合評価	栄養教諭による食育に関する授業実践などを年間指導計画に確実に位置付け、食育教育のより一層の充実を図ることが必要である。
6	給食センター	4	事業概要	児童・生徒の栄養バランスに気をつけ献立内容の充実を図り、食品・食材の衛生管理に万全を期し、安心・安全な給食を提供する。
安全で喜ばれる給食の提供			実施状況	学校給食実施計画により、1週あたり米飯給食3.5回、パン給食1回、麺給食を隔週で実施した。 また、行事食の実施など、献立内容を工夫しながら児童・生徒に喜ばれる給食を提供した。
【教育行政のスキーム】 食育・木育の推進			総合評価	衛生管理を徹底し、適切な調理の遂行や食材の管理により、円滑な運営が図られた。また、栄養基準に沿った献立で、安心・安全な給食を実施することが出来た。
7	給食センター	4	事業概要	本町の豊富な地場産物を積極的に給食に取り入れることにより、地域の自然や文化、産業、更には生産者への感謝の気持ちなど、児童・生徒にとって郷土白糠への愛着や理解が得られるよう「ふるさと給食」を実施する。
ふるさと給食の推進			実施状況	年間を通じて地域食材を使用した給食を提供するとともに、11月16日～20日までを「ふるさと給食週間」と設定し、児童・生徒への普及・啓発を行った。
【教育行政のスキーム】 食育・木育の推進			総合評価	山の幸として「かぼちゃ・ごぼう・長いも・しそ・チーズ・ブルーベリー・鹿肉」、海の幸として「秋鮭・灯台つづ・柳だこ」など、地元生産者の協力により白糠らしい「ふるさと給食」を実施することが出来た。

事業名(担当部署)		評価	点検内容
8	給食センター	4	事業概要 学校給食費の取扱に関する規則を遵守し、会計事務、監査に関する事項等を適切に処理するとともに、学校給食センター運営審議会への諮問などにより、給食費会計の透明化を図る。
給食費会計の透明化			実施状況 学校給食センター運営審議会を年2回開催し、給食費の算定、収入状況、予算・決算等を諮問するとともに、会計の状況について、規則で定める期日において教育委員会へ提出した。また、その内容が記された活動状況報告書を議会に提出した。
【教育行政のスキーム】 食育・木育の推進			総合評価 2回の学校給食センター運営審議会で諮問した会計の状況等は、いずれも適当との答申があり、所定の期日までに提出が定められている「出納計算書」「給食実施状況調及び決算書」等についても滞りなく教育委員会に提出し承認されるなど、給食費会計の透明化を図った。

施策名				
1 学校教育の充実				
(3) 信頼される学校づくりの推進 (4) 地域全体で子どもを守り育てる体制づくりの推進				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	管理課 学校教育係	3	事業概要	学校に対する第三者からの意見を聴取し、学校運営の参考にするため、父兄や地域を代表する評議員を設置。
学校評議員の設置			実施状況	白糠小学校及び白糠中学校に、校長から推薦のあった9名を学校評議員として委嘱した。各校で年3回の評議員会を開催し、保護者や地域住民の意見を聴取している。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上			総合評価	校長の求めに応じて学校運営に関して意見を述べる「学校評議員」から、保護者や地域の住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」への発展に向けた議論を進める必要がある。
2	指導室	3	事業概要	児童生徒の学力伸長のため、校内・校外における教職員の研修機会を増やし、またその内容の深化を促進する。
教職員の資質・能力の向上			実施状況	各学校の校内研修の場において、授業改善や小中一貫教育の推進等について外部講師を招聘するなど、研修の充実を図ることができた。また、白糠町教育研究所の機能を充実させ、町全体で授業改善や指導方法の工夫など取組の充実を図ることができた。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上			総合評価	町独自の初任者研修や小中合同研修など、様々な研修の機会を先生方に保障するとともに、学んだことを実践し、検証・改善するマネジメントサイクルを確立させる必要がある。
3	指導室	3	事業概要	町の教育研究所を支援し、教育研究の中核を担う。
教育研究所の支援（白糠町教職員研究事業推進委員会）			実施状況	町の実態に即して部会構成を改め、より時代のニーズ、地域が抱える課題の解決に向けた取組の充実を図ることができた。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上			総合評価	部会の取組内容を充実させ、ふるさと教育を基軸とした白糠町の教育推進に向けての今後の方向性を、町全体で共有する必要がある。
4	指導室	3	事業概要	ふるさと教育学習活動推進協議会を設置し、各校のふるさと教育の充実を推進する。
ふるさと教育学習活動の推進			実施状況	「ふるさと教育」を実現するため、それぞれの学校において特色ある活動を年間指導計画に位置付け、実施がなされている。
【教育行政のスキーム】 教職員の指導力向上			総合評価	各教科等の授業において、地域人材や地域素材を積極的に活用するなど、ふるさと学習の内容を踏まえた授業を充実させる必要がある。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
5	管理課 学校建設係	3	事業概要	児童生徒の適切な教育環境の計画的整備、白糠小中学校の統合改修に向けた計画を推進する。
学校施設の維持管理			実施状況	各学校の今後の計画的整備を行うため長寿命化計画を策定した。白糠小中学校の統合改修に向けた実施設計書を作成した。
【教育行政のスキーム】 自分を守る安全意識の涵養			総合評価	今後は長寿命化計画に基づき計画的な施設改修等を実施していく必要がある。また、白糠小中学校統合後の義務教育学校「白糠学園」の開校に向け、令和4年7月末までに統合工事を完了する必要がある。
6	管理課 学校教育係	3	事業概要	地域に学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民が学校運営に参画する仕組みを整えることで、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。
学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進			実施状況	庶路地区は既に学校運営協議会を設置しており、学校・地域が連携協力して子どもを育てる意識が高まってきている。 茶路地区は、学校運営協議会準備委員会を設置し、協議を取り進めた。
【教育行政のスキーム】 自分を守る安全意識の涵養			総合評価	町内全地区において学校運営協議会を設置し、学校・家庭・地域の連携を一層強化し、地域ぐるみで「地域とともにある学校づくり」を進める必要がある。

施策名				
2 社会教育の充実				
(1) 生涯学習を推進する実践活動の展開				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A = 3.4 ~ 4.0 B = 2.6 ~ 3.3 C = 1.8 ~ 2.5 D = 1.0 ~ 1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	『三愛運動』の奨励・実践として、各種会議資料等にタイトル、ロゴマークを掲載。『ふるさとエコ&クリーンしらぬか』についての調査を行う。
まちぐるみ運動の推進			実施状況	『三愛運動』や『ふるさとエコ&クリーンしらぬか』の学校・家庭・地域での活動を奨励するための啓発を行った。
【教育行政のスキーム】 まちぐるみ運動の促進			総合評価	コロナ禍において広報活動を重点的に実践することができたが、啓発活動を継続して行うとともに、広報活動方法以外の見直しを行う必要がある。
2	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	ボランティア活動の機会充実と活動支援、人材バンクの整備と指導者養成。
ボランティア活動の推進			実施状況	『学びの支援ボランティアどさんこ』には27名の講師が登録。また、青少年育成センターの『青少年育成員』には、町内会等から92名が登録し、ボランティア活動の機会を提供した。
【教育行政のスキーム】 ボランティア活動の促進			総合評価	活動機会の提供や調整を実施することができた。ボランティア講師の高齢化は目立っているが若年層の講師の確保ができたことから、今後も新たな登録者の発掘と活動環境の整備に努める必要がある。
3	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	学習情報の収集・提供により生涯学習関連事業への参加啓発に努める。『まちづくり出前講座』や『学びの支援ボランティアどさんこ』の講師を派遣し、学習機会を提供する。
生涯学習環境の整備			実施状況	『まちづくり出前講座』は、4領域55講座を設定し、4件(延べ140名)の利用があり、『どさんこ』講師派遣では、38件(延べ540名)の利用があった。
【教育行政のスキーム】 ふるさと教育への協力、郷土の歴史と文化の保存伝承活動推進			総合評価	生涯学習活動を推進するため、積極的なPRにより利用の拡大を図るとともに、需要や要望など新しいテーマを考え指導者の発掘に努める必要がある。

事業名(担当部署)		評価	点検内容	
4	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	乳幼児期、少年期、青年期、成人期、高齢期、各年代に合わせた学習活動の充実を図る。
			実施状況	主な事業として、幼児対象の『KIDSギャラリー』、少年対象の『ふるさと未来塾』、成人対象の『公民館講座』、高齢者を対象とした『白洋大学』など、各種の学習機会を提供した。
			総合評価	各事業は、新型コロナウイルスの影響により回数等が減ったが実施することができた。 生涯学習活動をより一層推進するため、地域課題、生活課題を洗い出し、多様化する学習ニーズに創意工夫を加える必要がある。
5	社会教育課 文化振興係	3	事業概要	図書室機能やサービスの充実を図るとともに、図書室利用促進を図る各種事業を実施し、読書活動を支援する。
			実施状況	リクエスト図書への迅速対応、読書関連情報の提供、コロナ禍での図書室閉館時の図書貸出など、図書室のサービス向上に努めた。 学校図書館やこども園での読書環境の充実を図るため、団体貸出や図書室司書派遣を実施した。
			総合評価	学校やこども園との連携、読み聞かせの会や図書室ボランティアの協力により、コロナ禍においても各種事業を実施することができた。 読書活動のさらなる推進を図るため、学校図書館関係者との意見交換、情報収集に努める必要がある。

施策名				
2 社会教育の充実				
(2) 社会教育活動の充実				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A=3.4~4.0 B=2.6~3.3 C=1.8~2.5 D=1.0~1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	青少年の健全育成を図るため、ふるさとをテーマにした活動や体験事業など、様々な学習機会を提供する。
青少年健全育成事業の推進			実施状況	新型コロナウイルスの影響により様々な事業が中止となったが『ふるさと未来塾』については、対策を講じ実施することができた。
【教育行政のスキーム】 青少年健全育成事業の推進、体験事業やボランティア活動への積極的な参加、生涯学習の環境整備			総合評価	自然体験や地域の基幹産業等についての学びを通じて、ふるさとの魅力を再発見し、郷土への思いを深めさせるなど、健全育成活動を推進することができた。 今後も、地域資源の活用と体験事業を重点に、内容の工夫・充実を図り、継続的にしていくことが必要である。
2	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	家庭教育を支援するため、『家庭教育学級』の開設をするとともに、『家庭教育の手引書「えがお」』の活用を奨励。家庭教育学級の集合学習会『子育てセミナー』を開催する。
家庭の教育力を向上させる支援の充実			実施状況	『家庭教育学級』は、学校で、4学級(学級生276名)を開設し、延べ11日実施。新型コロナウイルスの影響から『子育てセミナー』は中止の運びとなる。
【教育行政のスキーム】 家庭教育・地域教育の充実、子育て力の向上			総合評価	『家庭教育学級』などの家庭教育に関する学習については、学校との連携を深め、事業の工夫、家庭教育に関する積極的な情報提供及び支援を行う必要がある。
3	社会教育課 社会教育係	3	事業概要	青少年育成センターの事業充実と青少年育成員の実践活動を推進し、学校・家庭・地域が一体となった青少年健全育成の展開。
青少年育成センターの運営			実施状況	町内会や関係機関からボランティア育成員92名が登録し、登下校時など、青少年への声かけや見守りに取り組むことができた。 研修会を行い、共通理解を深めることができた。
【教育行政のスキーム】 青少年健全育成事業の推進、三愛運動の実践			総合評価	まちぐるみで取り組むため、活動環境の整備に努めるとともに、実践活動を増やすことができるよう工夫が必要である。

施策名				
2 社会教育の充実				
(3) 文化活動への参加機会の充実				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A=3.4~4.0 B=2.6~3.3 C=1.8~2.5 D=1.0~1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	社会教育課 文化振興係	2	事業概要	文化団体の活動充実を図るため、団体運営に関する助言や事業への協力などとともに、補助金による支援を行う。
文化団体の活動支援			実施状況	コロナ禍においての文化団体の活動に対し助言等を行った。活動回数が減るなど活動は思うようにできなかった。
【教育行政のスキーム】 文化芸術活動の充実、生涯学習の環境整備			総合評価	高齢の会員が多い団体は、コロナ禍での活動が全くできず、解散した団体があった。文化団体の会員増加につながる支援を継続的に実施する必要がある。
2	社会教育課 文化振興係	3	事業概要	町民だれもが気軽に、自由に文化活動に親しむことができる環境づくりとして、発表機会、参加機会を拡充し、活動の推進に努める。
文化活動の発表機会や参加機会の拡充			実施状況	総合文化祭が中止となり大きな発表の場はなくなったが、各団体に声掛けし町民ギャラリーでの展示を行った。幼児・小学生・中学生・一般向けの芸術文化鑑賞会は、感染対策をし実施した。
【教育行政のスキーム】 文化芸術活動の充実、生涯学習の環境整備			総合評価	町民ギャラリーの展示は、各団体に喜んでもらえたが、町民への周知の方法が課題となった。芸術文化鑑賞会は、公演時間を短くする、学年で分けるなど工夫し実施することができた。
3	社会教育課 文化振興係	3	事業概要	郷土芸能やアイヌ文化の保存伝承活動の推進と後継者の育成に努める。また、郷土資料の保管と調査を進め、展示や情報提供により活用を図る。
文化財の保護と活用 (郷土芸能、アイヌ文化、郷土資料)			実施状況	イベント参加調整等の運営協力を行った。アイヌ文化の伝承活動では、小中学校での出前講座や、チセでのアイヌ文化保存事業を支援することができた。
【教育行政のスキーム】 郷土の歴史と文化の伝承活動推進、生涯学習の環境整備			総合評価	郷土芸能の伝承活動を推進するため、団体活動の支援や発表機会の拡充を継続的に進めるとともに、新規会員の加入促進や後継者の養成に努める必要がある。郷土資料は、保管場所の確保や展示による活用の検討が急務となっている。

施策名				
2 社会教育の充実				
(4) スポーツの振興				
施策評価				
B		各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A=3.4~4.0 B=2.6~3.3 C=1.8~2.5 D=1.0~1.7
事業名(担当部署)		評価	点検内容	
1	スポーツ推進係	3	事業概要	ひとり1スポーツを目指し、各種スポーツ教室やスポーツイベントなどの充実を図り、生きがいや楽しみを重視した体力・健康づくりの推進。
生涯スポーツの充実			実施状況	スポーツ教室として2教室（NHKジュニアスポーツ教室、SEAによるバドミントン教室）を開催した。パークゴルフ大会などのスポーツイベントは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止または規模を縮小し実施した。
【教育行政のスキーム】生涯スポーツの充実			総合評価	SEA及びスポーツ推進委員を活用し、町技バドミンントンの普及を目的として教室を開催した。また、パークゴルフ大会では、町外からの参加者との交流を含め、生きがいや楽しみとしての体力づくり、健康づくりの機会提供ができた。 今後は、教室内容や開催時期などを工夫する必要がある。
2	スポーツ推進係	3	事業概要	各種大会出場への助成や指導者の養成等、スポーツ団体やサークルの継続的・組織的な自主活動の支援と環境の整備を行う。
競技スポーツの充実			実施状況	スポーツ団体やサークルの活動支援として、体育協会やスポーツ少年団本部等への支援や大会出場へ助成を行うなど、活動環境の整備を図った。 なお、指導者研修会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。
【教育行政のスキーム】スポーツ大会の充実			総合評価	スポーツ団体への事業支援により、競技力の向上を図るとともに、大会開催等によって地域間交流を推進することができた。 スポーツ活動の充実を図るためには、指導者の養成や人材の確保も重要であることから、研修会の開催や競技者から指導者への導きなど、様々な方策が必要である。

施策名			
2 社会教育の充実			
(5) 社会教育施設の整備・充実			
施策評価			
A	各事業の評価を合計した結果の平均から判断		A=3.4~4.0 B=2.6~3.3 C=1.8~2.5 D=1.0~1.7
事業名(担当部署)	評価	点検内容	
1 社会教育課 社会教育係	4	事業概要	学習施設として利用しやすいよう、社会福祉センター・縫別自然の家・公民館など、各施設の適切な管理と整備を行う。
施設の長寿命化を図る 保全・管理		実施状況	各施設への管理人の配置や施設・設備の保守点検により、適切な管理と維持に努めた。また、社会福祉センターの利便性を高めるため、施設改修に向けて具体的な内容の検討を行った。
【教育行政のスキーム】 生涯学習の環境整備		総合評価	各施設とも支障なく管理運営することができた。より利用しやすい施設づくりのため、施設や設備の老朽化、利用者の要望をふまえた改修を計画的に進めていく必要がある。
2 スポーツ推進係	3	事業概要	住民が体力づくりや健康づくり等、それぞれの目的に応じたスポーツ活動の場を提供し、スポーツ活動の推進を図るため、総合体育館外13施設の管理運営を行う。(指定管理者による管理運営)
施設の利用促進を図る 工夫・改善		実施状況	温水プールの内部改修及びスポーツ広場の改修を行い、更には経年劣化等によるスポーツ施設の修繕について、利用に支障がないように管理運営することができた。 また、指定管理者により、民間の活力を活かした施設の管理運営、事業展開等により、利用促進が図られた。
【教育行政のスキーム】 生涯スポーツの充実、生涯学習の環境整備		総合評価	施設修理・備品整備により施設機能の維持と充実を図ることができた。 指定管理者による事業や施設の充実により、利用者へのサービス向上を図ることができた。次年度以降も、施設の整備計画に基づき改修・修繕を進める必要がある。